



# インフォメーション・コーナー



## 会 告

「農業土木学会学術基金」の募金について.....	88
平成 19 年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について .....	88
平成 18 年度第 9 回中央講習会「農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全創出とその課題」 	88
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	89
学会誌掲載報文等による通信教育について.....	90
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	90
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ.....	91
国際会議の開催情報.....	92
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！.....	92
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「水土の知（農業土木学会誌）」平成 20 年秋季～冬季の表紙写真の募集.....	94
農村計画研究部会第 29 回現地研修集会のお知らせ（第 1 報） .....	94
第 53 回風に関するシンポジウムの開催案内および講演募集 .....	94
農業土木学会論文集第 247 号内容紹介.....	95
<b>学会記事</b> .....	98

## 農業土木学会行事の計画

農業土木学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 2 月 28 日	行事企画委員会	平成 18 年度第 9 回中央講習会 	農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・ 創出とその課題	東京大学弥 生講堂一条 ホール	74 巻 12 号 75 巻 1 2 号
平成 19 年 8 月 28～31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業土木学会大会講演会 		島根大会	74 巻 12 号 75 巻 1 号

### 学会誌第 75 巻 1 号の正誤訂正について

以下のような誤りがありました。お詫びいたしますとともに訂正方をお願いいたします。

#### 第 75 巻第 1 号

ページ	誤	正
p 49 3 月号タイトル	葭池（よしいけ暗渠）	葭池（よしいけ）暗渠
p 50 5 月号撮影者 9 月号タイトル	北川廣元 舟入用水白石川掛樋	木村廣元 船入用水白石川掛樋
p 72 下から 17 行目	郵便振替用紙および入会申込書は、本誌巻末に綴じ込んであります。	郵便振替用紙および入会申込書は 2 月号巻末に綴じ込んであります。（来年度以降 1 月号に掲載）

### 平成 18 年度農業土木学会会員名簿の正誤訂正について

以下のような誤りがありました。お詫びいたしますとともに訂正方をお願いいたします。

#### 平成 18 年度農業土木学会会員名簿

ページ	誤	正
p 19 農業土木学会授 賞規程（沢田賞）	沢田賞は、農業農村に関する 科学技術により（or によっ て）の	沢田賞は、農業農村に関する 科学技術により
p 54 農業土木学会賞 および受賞者	同 北海道の水管理システム における IT の活用 最優秀技術賞 農業用ため池 のアオコ抑制システムの開発 吉永郁生（北陸農政局阿賀野 川右岸農業水利事業所長） 最優秀技術リポート賞	優秀技術賞 北海道の水管理 システムにおける IT の活用 優秀技術賞 農業用ため池の アオコ抑制システムの開発 吉永郁生（（独）農業工学研 究所） 優秀技術リポート賞
p 55	（現 北市コンサルタント）	（現 北市コンサルタント）

### 第 75 巻 3 号予定

**展望：**新潟県中越地震からの復興・再生：石川 佳市

**小特集：**新潟県中越地震の復興対策と危機管理（基盤整備）

新潟県中越地震「農地農業用施設」の復旧・復興：宮里 圭一

中越地震における棚田の被害と復旧対応および課題：内川 義行他

中越地震における用排水路の被害とその復旧について：三沢 眞一他

中越地震で被災した川西ダムの被災状況とその復旧：大橋 丈夫

中越地震におけるモデル方式による災害査定：吉川 夏樹他

#### 技術リポート

北海道支部：金富分木工の分水ゲート改修と庫体の材質検討：好井 晴美

東北支部：底泥土を有効利用した高ため池の改修工法について：福島 伸二他

関東支部：広域農道におけるメタルロード工法の施工事例：井坂 誠博

京都支部：国営水利施設「犬山頭首工」を活用した県営かんがい排水事業：奥村 俊幸他

中国四国支部：鳥取県西部総合事務所管内における新農業水利システム保全対策事業への取組み：成相 弘美

九州支部：農道高橋脚の設計施工について：北島 秀行他

**講座：**生態系配慮の基礎知識（その 1）農村地域の自然を守る意味：守山 弘

**小講座：**災害復旧事業：山田 育夫

**私のビジョン：**故きを温ねて新しきを知る：瀧本 裕士

## 「農業土木学会学術基金」の募金について

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成17年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名 (社)農業土木学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

## 平成19年度農業土木学会学術基金援助希望者募集について

### 学術基金運営委員会

農業土木学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成19年度は、規定第4条(1)の「特定の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業土木学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書様式をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申込下さい。

#### 記

1. 援助の対象：農業土木学会の会員(学生会員含む)、または会員によって構成されるグループ

#### 2. 援助方針

(1) 農業土木に関する特定の分野および学際的の分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。

(2) 平成19年度中(平成19年4月から20年3月)に海外で

開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていない場合でも、申請は受け付ける。この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

(3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安 1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成19年3月30日(金)

5. 報告の義務 援助を受けた者は、学会誌に記事を投稿する。

6. 申込み・問合せ先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail:suido@jsidre.or.jp

## 平成18年度 第9回中央講習会

農業・農村分野の展開方向 環境・資源・生態系の保全・創出とその課題  
行事企画委員会

農業土木技術者継続教育認定プログラム



本年度の中央講習会は、下記により開催します。奮ってご参加下さい。

#### 【開催の趣旨】

平成18年度中央講習会は、昨年に引き続き、農業・農村分野の新たな展開方向である、環境・資源・生態系の保全を中心に、本年度の各支部大会報告の中から、特に評価が高く、全国的なモデルになり得る地域の新たな取組について、最新の情報をご発表致します。事例発表後に会場と発表者全員で意見交換を行います。詳

細は下記の通りです。

#### 1. 中央講習会の日程

(1) 主催 農業土木学会行事企画委員会

(2) 期日 平成19年2月28日(水)10:00~17:10

(3) 場所 東京大学弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1(東京大学内)

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/>

2. プログラム 司会 前田 茂(行事企画委員会 委員)

- 10:00~10:10 開会挨拶  
元杉 昭男(行事企画委員会 委員長)
- 10:10~11:20 基調講演 「農業・農村分野の展開方向 - 地域資源と農村環境の保全・管理へ向けて -」  
京都大学大学院農学研究科 教授 三野 徹
- 11:20~11:50 講演 北海道支部  
「用水路(導水トンネル・管水路)の施設機能診断調査について(駒ヶ岳幹線水路の調査事例)」  
北海道開発局函館開発建設部農業開発課  
立石 信次・久本 俊幸・高山 典和
- 12:50~13:20 講演 東北支部  
「<sup>しづのやち</sup>鳴谷地地区における生態系に配慮した石積水路の工法検討事例について」  
山形県村山総合支庁農村整備課 小野崎 公喜
- 13:20~13:50 講演 関東支部  
「<sup>しゆつがせき</sup>拾ヶ堰の施設整備に係わる住民参加について」 関東農政局整備部設計課 権正 梓
- 13:50~14:20 講演 京都支部(1)  
「ため池における環境配慮への取り組みについて」~ベンチャー新技術率先発注モデル事業を活用して~  
大阪府環境農林水産部農政室整備課 岸本 崇司
- 14:20~14:50 講演 京都支部(2)  
「イタセンバラの<sup>も お</sup>棲む万尾川の改修について」  
富山県高岡農地林務事務所 鷹休 望
- 15:00~15:30 講演 中国四国支部  
「農免農道整備事業における環境配慮の事例紹介」

- 鳥取県八頭総合事務所 西村 正雄・松ノ谷 昭・上田 学
- 15:30~16:00 講演 九州支部(1)  
「宮崎県内における魚道の設計施工事例について」 農業用河川工作物応急対策事業から  
・宮崎県西諸県農林振興局 横山 雅敏  
・アジアプランニング株式会社 園田 征央
- 16:00~16:30 講演 九州支部(2)  
「ツシマヤマネコと共生する圃場整備の取組み」  
長崎県島原振興局農村整備課 畠中 常喜
- 16:30~17:00 意見交換
- 17:00~17:10 閉会挨拶 農業土木学会

3. 参加費 一般4,000円, 会員割引2,000円, 学生1,000円  
\*参加費は申込みと同時に, 事前に振込みを御願ひ致します。  
現金書留: 農業土木学会行事企画委員会宛  
郵便振替: 00160 8 47993 社団法人農業土木学会  
銀行振込: みずほ銀行新橋支店普通預金 1167243  
社団法人農業土木学会専務理事岩崎和己
4. 定員 150名程度 \*申込締切 平成19年2月23日(金)  
参加を希望される方は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)の「新着情報」コーナーから参加申込書をダウンロードして頂き, 下記までメールの添付かファックスにて申込み下さい。どうぞよろしく御願ひ致します。
5. 申込み・問合せ先  
農業土木学会行事企画委員会担当庄田  
☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494  
E-mail shoda@jsidre.or.jp

## 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願ひ

### 農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では, 近年における地震, 豪雨等による災害が各地に発生し, 農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み, それら災害の原因究明, 復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として, 災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では, 農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害, 学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して, 災害発生後, 直ちに災害対応調査団を派遣し, 調査の実施, 復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで, 災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に, 早急に対応できるよう, 調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果, 登録された

会員は, 災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して, 緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお, 災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は, 高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は, 候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は, 原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は, 農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して, 調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードし、お

申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

### 学会誌掲載報文等による通信教育について 農業土木学会行事企画委員会 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。是非、通信教育にご参加下さい。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業土木学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX( 03 5777 2099) でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた方は、改めてお申込まないでください。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

#### 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

#### 3. 事務局

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

#### 4. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

### 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003 年 1 月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006 年 12 月末には Vol 4 No 4 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)

- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されると、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003 年 3 月創刊, 以後 3 カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>  
 入会のお申込みは、学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR

MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」(International Society of Paddy and Water Environment Engineering) を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年12月末には Vol. 4 No. 4 が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国から Editor (14名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**編集事務局の移転**：2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが2006年1月1日からは新 Editor in Chief；中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間（～2008年12月31日まで）、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panel の構成メンバー（編集体制）および新投稿先が下記ようになります。

ただし2005年12月末までに投稿された原稿は、日本（農業土木学会）の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

**新投稿先**：PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
 International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)  
 KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.  
 Tel : + 82 2 562 3627, 562 3613 Fax : + 82 2 565 6821  
 Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制** (2006.1.1～2008.12.31)

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)  
 The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors 13カ国から14名
- Editing Board 32名
- Managing Editors  
 Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG  
 Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea
- Dr. Yutaka MATSUNO  
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan
- Dr. Masaru MIZOGUCHI  
 Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE  
 Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan
- Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG  
 Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

**出版社**：Springer Verlag 社（ドイツ）

**投稿資格**：筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等**：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

## 国際会議の開催情報

- 1) 10th Inter-Regional Conference on WATER AND ENVIRONMENT (ENVIROWAT 2007), 2007年10月17日~20日, ニューデリー, インド。詳細は [www.iswam.in/envirowat2007](http://www.iswam.in/envirowat2007)
- 2) AgEng 2008 (ヨーロッパ農業工学会), 2008年6月23日~25日, ヘロニッソス, クレタ島, ギリシャ。詳細は [www.ageng2008.com/](http://www.ageng2008.com/)
- 3) CIGR International Conference, 2008年9月1日~7日, リオ・デ・ジャネイロ, ブラジル。詳細は [www.acquacon.com.br/cigr\\_rio2008](http://www.acquacon.com.br/cigr_rio2008)
- 4) CIGR World Congress, 2010年夏, ケベック, カナダ。詳細は [www.bioeng.ca/Events/CIGR/index.htm](http://www.bioeng.ca/Events/CIGR/index.htm)

## 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

## 農業土木学会誌編集委員会

## 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業土木学会ホームページ

に掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

## 学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4ページ厳守)
75 巻 3号 新潟県中越地震の復興対策と危機管理 ( ) (仮)	公募終了	
4号 " ( ) (仮)	公募終了	
5号		
6号 大会関連	公募なし	
7号 持続循環型農業農村技術開発 (仮)	平成19年2月25日	平成19年4月13日
8号 農地・水・環境保全向上対策に向けて (仮)		平成19年4月30日
9号 農地からの土壌流出及びその対策 (仮)	平成19年3月23日	平成19年5月15日
10号 農業農村分野におけるGISの活用 (仮)	平成19年4月25日	平成19年6月15日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上げ4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E-mail [henshu@jsidre.or.jp](mailto:henshu@jsidre.or.jp)

## 75巻7号テーマ「持続循環型の農業農村へ向けた技術開発(仮)」

近年、国内の農業農村整備事業では、環境に配慮した整備が着実に進められてきており、また国民の環境への関心も高まりつつあります。

一方、地球レベルに視点を移すと、開発途上国を中心に、農民は貧困や栄養不足等の厳しい生存条件の中でより多くの生産と収入を得るため、過度な耕作、放牧、森林伐採を行うなど資源収奪的な生産活動を余儀なくされてきました。

その結果、商業的農業の進展と合わせて、土地や水等の農業を営む上で不可欠な資源が急速に劣化し、砂漠化や熱帯林の減少など地球規模の環境問題が引き起こされています。

そこで、わが国をはじめとする世界各国においてさまざまな取り組みが進められています。

たとえば2006年に農林水産省農村振興局が取りまとめた「農業農村開発協力の展開方向」では、貧困・飢餓の撲滅、地球環境の保全等を実現するためには、資源収奪型の農業農村から、限りある資源を有効活用する持続的で循環型の農業農村へ移行する必要があると提案されています。

また、具体的な対策として、小水力発電等の代替エネルギーの導入や、CO<sub>2</sub>の吸収源となる農地の保全により温室ガスを削減するなどの地域資源を利活用した対策技術、半乾燥地域における農業・森林・牧畜を地域の状況に応じて連携させ土壌保全していく循環型の砂漠化防止対策、農民自ら持続的に維持管理できる末端灌漑施設の整備手法の開発等が提案され、実現に向けた取り組みが始められています。

このような取組みを進めるには、国内外におけるわが国農業農村開発の経験と知見を活用しつつ、地域住民の参画を含めた持続的発展が可能となる農業農村整備を展開していくことが重要であり、そのための知識・技術手法の開発・活用・改良が求められています。

## 75 巻 9 号テーマ「農地からの土壌流出とその対策」

降雨時に農地から土壌が流出すると、下流側の水質環境にさまざまな影響を及ぼすことがあります。具体的には、土粒子とともに流出した栄養塩による閉鎖性水域の富栄養化、土粒子そのものによる河川の濁り、また土粒子を含む河川水が湖沼や海域まで到達した後の濁りの長期化や岸辺での土粒子の堆積、といった事例があげられます。農山村地域では本来、森林や水田の存在により表土が流出しにくい土地利用管理がなされてきましたが、近年の農山村を取り巻く状況の変化から、その保安全管理が十分なされないことに起因して、土壌浸食とそれに付随した問題の発生が懸念されているところです。

## 第 75 巻 10 号「農業農村分野における GIS の利活用」

GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) は、位置情報や属性を持った空間情報をレイヤー化して、コンピュータを用いて重ね合わせて加工・管理し、高度な分析や解析を行い、結果を視覚的に表示させるシステムです。米国、カナダでスタートした GIS 技術は、1980 年代以降、衛星による位置情報システム (GPS) やリモートセンシング (RS)、各種シミュレーションやデータベース、インターネットなど、さまざまな先進技術と連携することで、応用分野は非常に広範囲となり、またその利用は急速に拡大しました。

農業農村分野においては、これまでに土地利用情報、農業水利施設情報、ため池情報、農道・流通拠点施設情報など、さまざまな情報について GIS のデータ基盤整備が進められ、平成 18 年度

そこで、地球環境の保全を視野に入れた新たな農業農村開発協力を進めるという観点から、持続循環型の農業農村へ向けた技術開発に焦点を当てた報文特集を企画することとし、かかるテーマについての研究、技術、事例紹介などを広く募集致します。

土砂の流出量は、土壌の特性だけでなく、農法や地形・植生・気象条件等によって変化します。そのため、土壌流出に対しては農地それぞれの特性を考慮した対策が必要となり、現象解明を目的としたさまざまな調査研究と、その抑制にむけた対策手法が積極的に取組まれてきました。

そこで、農地からの土壌流出に焦点をあて、土壌流出にかかる室内実験・現地観測など、現象解明を目的とした最先端の研究報告や、農地や水路における流出抑制対策手法、または土地利用や水利管理による広域的な土壌流出抑制にむけた取組み、にかかわる報告を募集します。

からは水土里情報利活用促進事業が導入され、更なる利用普及を推進しているところです。実用面で、GIS は農地や用水の利用調整や営農管理のほか、農業水利施設の維持管理、ハザードマップの作成、防災情報の伝達、環境配慮対策への支援など、多方面への利活用が期待されています。また、より良い利活用のためには、農林水産省、都道府県、市町村、農協、農業委員会、土地改良区など、各種の農業関係機関や教育研究機関の間で情報の共有化をはかることが最大の課題となっています。

そこで今回の小特集では、農業農村分野における GIS の利活用をテーマとして、これにかかる最新の研究事例、先進的な利活用事例、開発されたシステム、情報共有化の取組みなどについての報告を公募いたします。

## 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷上がり 1 ページ 1,800 字程度**で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れてください。

**私の勤める本**は、原稿の長さ：1,200 字（写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい）

## 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業土木学会誌)」平成20年秋季～冬季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成20年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第76巻(平成20年1～12月号)のうち、特に秋季～冬季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

### 記

#### 1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかっていくようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

みなさんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦勞が垣

間見える造形美」を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

#### 2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

#### 3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

#### 4. 締切 平成19年3月30日(秋季～冬季の写真)

#### 5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してどっと崩れしないことが採用の条件となります。

## 農村計画研究部会第29回現地研修集会のお知らせ(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村計画研究部会では、下記のとおり平成19年度第29回現地研修集会を開催いたします。どなたでも参加できます。

なお、詳細につきましては、決まり次第、学会誌やホームページ等でお知らせします。

### 記

テーマ：歴史資産と現代の調和をさぐる 元気な地域づくりから美しい大和へ(仮)

日 程：平成19年9月6日(木) 研修集会

7日(金) 現地検討会

会 場：奈良県新公会堂 能楽ホール(奈良県奈良市)

## 第53回 風に関するシンポジウムの開催案内および講演募集

幹事学会：水文・水資源学会

共催学会(予定)：農業土木学会他16

1. 日時：平成19年6月21日(木) 午前10時～5時

2. 場所：東京大学弥生講堂・一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内

#### 3. 開催要領

(1) 基調講演：「さまざまな地球表面と大気間の乱流輸送観測に関する諸問題」をテーマとして、生態系、都市、海洋を対象にした乱流輸送観測に関する複数の講演を予定しています。

(2) 一般講演(講演時間15分)：生態系、都市、海洋、雪水面、沙漠などでの乱流輸送観測のほか、広く風に関する講演を募集します。

4. 参加費：一般1,000円。学生無料。

5. 参加・講演申込み：シンポジウムへの参加・講演を希望され

る方は、水文・水資源学会ホームページ(<http://www.jshwr.org/modules/news/>)から、参加申込み用紙をダウンロードしていただき、必要事項を記入の上、下記申込先までE-mail添付にて、講演要旨とともにお送りください。講演要旨は、A4用紙一枚を用い、表題、著者、本文を書き込んでください。図表を入れてもかまいません。

6. プログラム：講演申込み締切り後、参加者の皆様に連絡いたします

7. 講演発表の申込期限：平成19年4月20日(金) 必着

8. 懇親会：シンポジウム終了後、懇親会を予定しています

#### 9. 問合せ先・申込み先

〒606 8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻 谷 誠

E-mail: [tani@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:tani@kais.kyoto-u.ac.jp)